

## 海外安全対策情報(平成30年度第1四半期:平成30年4~6月)

### 1 社会・治安情勢

4月1日にマシシ大統領が就任し、閣僚や情報機関等の一部の人事異動が行われたほか、近年行われていなかった大統領による記者会見が行われるなどの変化が見られた。新政権は雇用の創出を優先目標として取り組む姿勢を示しているものの、産業育成・多角化には時間がかかると見られ、主力産業である鉱業部門での近年の一部鉱山の閉鎖などによる失業増は、引き続き社会・治安情勢にも影響している。また、隣国南アフリカでは頻繁にストライキやデモが行われ、当国内の一部の店舗で商品の入荷が遅れるなどの影響が見られたほか、当国内でも5月には自動車部品工場におけるストライキなどが単発的に行われたが、社会情勢に大きな変化はなく落ち着いている。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 正確な統計、犯罪の傾向等は発表されていない。犯罪発生件数は高い水準で推移しているとみられ、引き続き注意が必要である。

#### (2) 邦人被害事案

邦人の被害は確認されていない。なお、犯罪被害でないが、4月に地方幹線道路で邦人が運転する車が路上の牛に衝突する事故が発生している。

#### (3) 邦人以外の被害事案

現地警察からは、ハボロネ市内(ブロードハースト)の交差点で夜間女性が運転する車が3人組の男に襲われ、犯人らが後部ドアを開け貴重品を奪って逃走中に、そのうち1名が追跡した警察に射殺されるという事件などが報告されている。また、5月下旬、チョベ国立公園に近いモレミ動物保護区のキャンプサイトで、3名の外国人観光客グループが夜間に襲われ、1名が負傷したほか、ロックしてあった車内から貴重品が盗まれるなどの事件が確認されている。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件に相当する事案は確認されていない。

### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人の被害は確認されていない。

### 5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情は引き続き良好で、大きな変化はなく、日本企業が犯罪の標的とされる可能性は低いと考えられる。